

発行所
津 奈 木 公 民 館
芦 北 郡 津 奈 木 町
電 話 (78) 5400番
平成18年1月1日発行
第366号
○右の題字は「徳富蘇峰さん」
の顔を写したものです。

津 奈 木





「甲戌」生 津小5年のみなさん

新年のごあいさつ
津奈木町長 西川 裕
明けましておめでとうございます。
町民の皆様には、それぞれにすばらしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。
昨年、津奈木町にとりましては、大きな自然災害や人的災害も無い比較的平穏な年ではなかったかと思えます。
しかし、日本国内に目を移しますと、宮崎県等では三日間で千六百ミリを越す豪雨災害に見まわれたり、幼い児童が殺される等々、心を痛める事が多かった年でもありました。特に企業犯罪や個人の多くの犯罪は、道徳や倫理観の低下に起因することが大きいと思えます。戦後六十年、物質的豊かさを求め、経済発展第一主義で走りつづけ、世界第二位の経済大国を作り上げてきました。しかし一



方では、日本人が長い歴史の中で育んできた宗教観や道徳、家族や地域社会を中心とした生活感覚、「和を以て尊し」といった心の在り方の支柱となるものが置き去りにされた歳月でもありました。
そして、みんな（公）のために自分（個）があり、自分のためにみんながあるといった、個人と地域社会が一体となった日本人の生き方、人生観、国家観を形作っていたのだと思います。その精神の根本のところに「清新・誠実・勤勉」といった心の特質が日本人の道徳の基本的要素だったと思います。
戦で負けた時から、日本人にとつての誇りの根幹をなす「心の在り様」の問題を棚上げにして、経済至上主義を走り続けた結果、物質的豊かさは得られたとしても、何か心の充足感の薄い、不透明な、不安の多い世の中になって来たのではないかと思います。
将来、安心・安全・そして安定した「品格ある日本」を取りもどすには、日本全体の教育力・地域力の再構成しか無いように思えてなりません。

子ども美術館 (35)

「緑と噴水」

津奈木中三年 大津 貞子



「めがね橋」

津奈木中三年 橋口 亮子



お知らせ

成人式御案内

日 時：平成18年1月3日(火)
午前10時～

場 所：つなぎ文化センター

受付時間：午前9時30分から午前10時
(受付はお早めをお願いします)

※成人者のみなさん、ぜひご参加下さい。

親子「たこあげ」大会

参加者募集

●日時 平成18年1月15日(日)
午前10時から12時まで

●場所 津奈木総合グラウンド
雨天中止
(いろんな賞を準備しております。)

三太郎駅伝
小さい町で頑張ります

第五十六回熊日三太郎駅伝大会が、平成十八年一月八日(日)水俣市役所前10時スタートで実施されます。
今年は町村合併によって津奈木町、芦北町、水俣市のチームでそれぞれ市町によってチーム数は異なります。津奈木町はA・B二チームで編成してあります。役員、候補選手は次のとおりです。
なお、中学生の部も頑張りますので、応援よろしくお願いします。

(一般の部)		(中学生の部)	
監督	選手	監督	選手
村上 義廣	新立 啓介	福田 康孝	山本 大貴
鶴野 賢二	必	財部 優太	上野 晃介
宮嶋 弘行	森山 広行	藤井 大樹	山路 宏幸
松永 清	藤原 審二	平居 芳明	松崎太志朗
田口 伸二	清水 良二	新立 悠太	竹永 京平
倉野 義彦	平野 拓己	下川 昂将	船場 祥太
倉本 健一	齊藤 新市	山本 桂司	
諫山 吉光	竹本 昌広	篠原 由美	柳迫安由美
門崎 功晃	村上 泰央	柳迫 春香	前田あゆみ
宮島 哲男	吉野 貴則	林田 桃子	
開田 龍一	農原由二郎		
堀田 将豊	福田 晃一		
山路伸一郎	新立 司		
長濱 舟作	福田 直也		
緒方 征佳	津々木 護		

(本町通過予定時刻)

コース	時刻
総合グラウンド前	10時30分
新川橋	10時33分
中学校前	10時37分
千代畜産碑前	10時45分

人権ポスター

友だちを信じよう

津中一年 諫山 麗華



編集後記

新年明けましておめでとうございます。
昨年末頃には子どもを取りまくニュースが多くて心を痛めましたね。
今年は「丙戌」、どんな歳が待っているでしょうか？一年を振り返ってみればなんだか暗いニュースばかりだったような気がいたします。戌歳にふさわしく元氣よく走りまわって「犬も歩けば棒に当る」諺どおり、吉報が当たってもらいたいです。

編集委員一同
石田ミサ子 篠原 尚子
澤井 静代 谷口 得也
栗塚 岩雄

祝成人

住んで楽しい津奈木町を目指します

成人者名簿

地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
竹中	下り藤 卓実	桜戸	椎 葉 優	中尾	山口 和久	平国下	濱田 隆太
	高 塚 宏之		福 田 士朗	古中尾	山本 美由紀		長 濱 知代
	鶴 野 剛士		山 口 智也	倉 谷	古澤 昭平		松 本 藍
	真 野 寿彦	町 中	荒 木 梨絵		楠 本 唯那		三ツ石 優里
	山 崎 大 誉		財 部 昇子		山 本 侑希		村上 実有紀
	山 崎 健博	新 川	川 崎 康弘	内 野	山 川 雄大	日 当	伊 藤 祥市
	上 野 亜美	古 川	濱 本 望		山 路 一 幸		岩 崎 大志
	嶋 中 香里	大 泊	新 立 昌弘	上下門	宮森 麻理奈		上 村 政也
	竹 永 智世		津奈木 和貴	川 内	西 平 暢子		篠原 陽一郎
	松上 愛裕美		西 竜 司	福 浦	福 田 智則		森山 枝里子
	山 田 里美		真 野 慎吾		福 田 満	日 添	開 田 元樹
	百合園 佳奈		真野 竜太郎		福 山 和晃		松崎 由里子
染 竹	岡 下 恭子		開 田 愛妙		福 田 由佳		吉 野 美緒
	門崎 百合子		藤原 千恵美		福 山 恵梨	小津奈木	白 坂 旭
浜 崎	大 園 将		真野 しのぶ	平国上	村 上 修司		山 田 哲也
	川 元 翼		柳 迫 明 菜		野 崎 桃 子		江口 祐美子
	洲 上 星矢		柳 迫 里 香	平国下	長 濱 優貴	丸 岡	吉 野 智幸
	前 田 慎 悟	中 尾	竹 田 瑠典		野 崎 洋 一		池 上 彩
	宮 本 雅大		洲上 佑太郎		濱 田 広 和		平 生 由佳

この名簿は中学校卒業生名簿を参考につくりました。

津奈木の子どもを語る会

去る、十一月二十九日文化センター会議室に於いて、「津奈木の子どもを語る会」を開催しました。

くまもと教育の日実施要項に沿って「つなぎ教育の日」を設けたことは十一月号の公民館報で既報してあります。その手始めとして関係者、教育厚生議員、町内校長会、町内PTA会長、津教委の各関係者によって熱心な語る会でした。今回は「津奈木の子どもを語る



第1回「津奈木の子どもを語る会」

つけ出す指導を... 偏差値について 挨拶は良くなった。特に部活動をする児童、生徒。日常的に挨拶が出来るようにしたい。 次会から女性の参加も要望されました。

津奈木町川内地区自治公民館活動を下川博文さんが紹介しました。前回の「どろんこビーチ



下川 博文氏 浜田 倫紀氏

「地域を元気に」 くまもと県民カレッジ・公開講座 (十月三十日) を実施しました。二つの大会を実施するにあたっての計画・実施にいたる経過の発表がありました。その後、「綾の教育論

熊日短歌大会入選

野田浦子さんは(上下門)農作業、主婦業に励んでおられることはご存知のことと思います。その多忙な合間に短歌の創作に熱心でいろいろな会に投稿されておられます。

創作のときは、どんなことに気をつけて句を詠まれますかとお聞きしたら「見たまま、感じたまま」を語りかけるような気持ちで詠んでいます、とのことでした。館報にも毎回投稿されております、お読みになった

全国高校女子駅伝大会出場



駅伝大会に関係したことのある選手ならば誰しも走ってみたい大会でしょう。本町出身(赤崎小・津奈木中)で市立千原台高校の藤原恵美さんが十二月二十五日に都大路で開催の全国高

でしようか。また、会員の方々の素晴らしい句もありました。

第五十回「熊日短歌大会」に投稿され「秀逸」に入選されました。 次の句が入選された句です。 「電源のスイッチ入れる猪よ けも 最後とならむ明日は 稲刈る」



成人になって私の決意



椎葉 優さん

「今年、成人式だね。」と言う声に「そうか。」と思う私。まだ成人という実感が無いのが正直な感想だ。私は、郵便局で配達業務の仕事をしている。たまに配達中に年齢を聞かれることがある。「今年二十歳です。」と答えると、いつも



長濱 優貴さん

社会人として早二年近くが経ちました。会社勤めになるようになり、いろいろな人々との出会いがありました。仕事の厳しさや仕事に対する責任を実感しました。自分も成人という節目の年を迎えました。ここからまた社会に出て、いろんな人達と関わりあい自分を変え



吉野 美緒さん

成人を迎えた今、成人者としての自覚、責任を持ち、今度は自信をもって「二十歳です。」と答えたい。



山本 侑希さん

「成人」という大きな節目を迎えたいです。今まで中途半端で終わっていた事が多かったので、これからいろんな事に挑戦して、あきらめずに頑張っていこうと思う。そしていろんな人達との付き合いも大切に、一日一日大切に過ごしていきたいと思います。



校女子駅伝大会に出場されました。 高校時代厳しい練習に耐えられ見事夢を実現されました。



中村 彰我

ぼくの夢はけいさつかんになることです。というのは、けいさつかんになると力をつけられるからです。それで、どろぼうをつかま

読書感想文 「夢、けいさつかん」

津奈木小3年 中村 彰我

また、けいさつかんになって、お金をためて遠い所に行きたいです。そして、家をたてて、家族のみんなにごちそうをたべさせて、みんなをうれしい気持ちにしたいです。とくにおばあちゃんをおいしいレストランに連れて行きたいです。おばあちゃんがなくなったら、それまでにけいさつかんの仕事をがんばって、高いかんおけと高い石のおはかを作って、天国に行ってもいあわせになつてほしい

家族のみんなをまもるためにも、そしてみんなをあわせにするためにも、今からがんばってけいさつかんになって、そしてけいさつかんの仕事もかんばりた

